

第4回 生物・化学汚染による健康障害の建築的対応 特別研究委員会
議事録

記録：長谷川

- A. 日時：2006年12月19日 17:00～19:00
- B. 場所：日本建築学会会議室
- C. 出席者：<委員長>吉野 博 <幹事>加藤信介
<委員>池田耕一, 大澤元毅, 桑沢保夫, 篠原直秀, 長谷川兼一, 坊垣和明,
森 千里, 森川康成, 熊谷一清(柳沢幸雄 代理)
<オブザーバー>弘瀬 将光, 渡辺利沙 (順不同, 敬称略)
- D. 資料：No.4-0 議事次第
No.4-1 委員会名簿
No.4-2 第3回 議事録
No.4-3 検討課題のキーワード
No.4-4 委員会の活動計画
No.4-5 IAPOC3 までの HP 内容一覧
No.4-6 新 WG の提案
No.4-7 厚生労働省科研相沢班・秋山班合同研究会プログラム
No.4-8 シックハウス症候群の定義
No.4-9 室内環境学会誌(2006年11月 Vol.9No.2)
No.4-10 「カビと健康問題」シンポジウム企画に関する資料
No.4-11 問題となっているリン酸エステルと洗浄剤のリン酸との相違
No.4-12 鹿島学術振興財団 2006年度研究助成申請書
No.4-13 ケミレスタウン・プロジェクトの現状報告と今後の方向性
- E. 議事
1. 前回議事録の確認が行われた。「(ア)⑦大澤・坊垣」下線部分を訂正。(資料 No.4-2)
 2. 資料 No.4-3 に基づき, 検討キーワードについて確認された。資料には, これまでの話題提供内容とキーワードとを関連付けている。「6 Healthy Building における…」に「池田資料, 篠原資料」を追加する。
 3. 委員会の活動計画(資料 No.4-4)が確認された。
(ア) 話題提供
 - ✓ 次回の話題提供として, (8)坂部先生(北里大), 或いは(9)岸先生(北大)に依頼する。もし, 都合がつかない場合は, 「1. (2)加藤委員」にお願いする。
 - ✓ 「1. (7)大澤・坊垣」下線部分を修正する。
(イ) シンポジウム・ワークショップの計画案(資料 No.4-10)
 - ✓ IAQVEC で企画するワークショップの参加候補が挙げられた。
J.Sundell(デンマーク), J.Spengler(米), HJ.Su(台湾), KW.Tham(シンガポール), H.Burge(米)
(ウ) 研究費の申請
 - ✓ 吉野委員長が鹿島学術振興財団に申請(資料 No.12)
(エ) 文献調査
 - ✓ 随時, 文献を紹介していただく。
 4. 資料 No.4-5 に基づき, 委員会の情報公開について確認された。IAPOC3 までの HP が学会 HP から閲覧できることを確認し, 今後も現状のままとする。また, IAPOC4 の HP の作成状況が報告され, 今後, 学会 HP からリンクされるよう管理担当者に依頼する。
 5. 加藤 WG の進捗状況が報告され, 来年度の中頃に研究成果の報告が可能である。
 6. 新 WG 設置の提案がされた。資料 No.4-6 に基づき, 研究内容の説明が行われ, 了承された。状況に応じて, WG 委員への参加を適宜呼びかけることとする。
 7. 資料 No.4-7 に基づき, 厚生省科研費・合同班研究会の開催について報告された。

8. シックハウス症候群の定義について審議された。資料 No.4-8 の上段(鳥居先生)の定義は、シックビル症候群の定義と同じであり、シックハウス症候群との差異が明確でない。資料下段(相沢先生)の定義は、化学物質過敏症の定義と類似しているため、このままの内容では受入難い部分がある。シックハウス症候群の定義としては、医学的判断のみならず、建築的な観点からの内容が含まれるべきとの意見が出された。定義については、今後も検討を重ねる。
9. 資料 No.4-9 に基づき、室内環境学会にて企画された特別シンポジウム「室内環境中の微生物および微小生物の健康影響」の内容が報告された。
 - (ア) 阿部先生：学会内に微生物 WG を設置されている。防菌、抗菌機能を有する製品の妥当性を検証することを目的としている。WG 活動の一環として、曝露チャンバーを作成し、各種検証実験を予定している。
 - (イ) 秋山先生：ダニアレルゲンの簡易測定法を提案している。床、布団等の表面に粘着テープにてダストを採取し、ELISA 法による生化学反応によりアレルゲン量を定量化する。
 - (ウ) 川上先生：衛生害虫(衛生上問題を起こす害虫、ダニ、チャタテムシ等)について紹介されている。
 - (エ) 柳先生：室内空気中の細菌、カビ、ウィルスの測定結果を示されている。主たる発生源が外気であるカビは粒径が大きいためエアフィルタで除去できるが、細菌は室内発生が主であることが示されている。ウィルスは粒径が小さいため、高性能のフィルターが必要である。
 - (オ) 鳥居先生：カビとアレルギーとの関連性について報告されている。カビの害は二次代謝物であるマイコトキシン中毒、カビアレルゲンによるアレルギー疾患を挙げている。
10. リン酸エステル類と洗剤等のリン酸との違いについて、資料 No.4-11 により報告された。洗剤は無機系のリンに属し、高濃度で触れると炎症や失明の危険性がある。しかし、コーラの酸味料や洗剤に使われているように、無機リン化合物には毒性の低いものが多く、有害性としては、赤潮発生を誘発するという環境問題への影響が大きい。一方、有機リン化合物(難燃剤や可塑剤等に使用)の人体への有害性は高いが、定量的なデータは不明である。
11. 「ケミレスタウン・プロジェクトの現況報告と今後の方向性」と題して話題提供(資料 No.4-13)が、森委員により行われた。
 - ✓ 環境予防医学の観点から、シックハウス症候群の原因と考えられる化学物質を極力低減させた環境を構築する。
 - ✓ 環境改善が症状の低減に効果があることを実証し、各種の予防法を蓄積する。蓄積された知見を社会へ還元し、ケミレスな社会を実現させることを目指す。
 - ✓ 2007 年度夏頃までに実証建物が完成する予定。その後、2011 年まで実証実験を継続して行い、その後、得られた知見をもとに、予防法の普及を行う。
12. 次回：3月9日(金) 17:00~19:00 於：建築会館会議室
話題提供は、他の提供者がない場合、加藤委員が担当することとなった。
→ 北海道大学・岸先生に引き受けていただけることになった。(12/22)